

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：性差研究に基づく科学技術・イノベーション

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：なし

3 開催日時：令和4年9月8日（木）13:00～16:30

4 開催場所：日本学術会議講堂（オンライン併用）

5 開催趣旨：

近年、性差を科学の重要な要因と捉え、研究と科学技術イノベーションの質の向上を目指す動きが欧米で始まり、世界中に展開され、国内においても「第5次男女共同参画基本計画」及び「第6期科学技術・イノベーション基本計画」でその必要性が記されている。また、2022年6月から一年間取り組まれる「持続的発展のための国際基礎科学年」の活動では女性の科学への参加を重要な目標の一つとしている。

特に、新型コロナウイルス感染症の拡大により性差をはじめとする人の特性に関する問題が大きな課題を生んでいる。新型コロナウイルス感染症の診断で使われるパルスオキシメーターは肌の色によってその感度が異なり、またオンラインの普及とともに一般的に使用されるようになった顔認証は、性別と人種によってその認識率が大きく異なる。

第25期日本学術会議では、男女共同参画分科会と性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会にて、本テーマに関する議論を蓄積してきたが、市民等多くの関係者を交えた議論と共有が必要である。

本フォーラムは、性差研究の提唱者であり人の特性差をあらゆる研究に組み込むことの必要性を訴えてきた Londa Shiebinber 教授の基調講演を行うとともに、人文・社会科学、生命科学、理学・工学における性差研究の話題提供を行い、科学技術イノベーションの在り方をパネル討論で議論する。

6 参加人数：

講演者等：13名

その他の参加者：会場参加者21名、ユーチューブ最大同時視聴者数188名

7 特記事項：

本フォーラムにおいて新聞社による取材があった。

本フォーラムでは視聴者から約20件の質問があったが、これらをもとに第25期の残りの期間中に議論を深め、社会に発信する。発信は市民、特に若手を中心とし、また出版の企画も検討する。